

令和4年度

藍畑小学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 子どもの気付きを大切にされた基礎的・基本的な学力の向上と望ましい学習習慣の定着
- ICTの効果的な活用を通し、児童の思考を深める授業の実践

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 教諭 実平 真波 (第1学年担任)	委員	校長	上萩 琴美
		教頭	福島 明子
		教諭	森田 純次(第4学年担任)
		教諭	岡本 賢司(第6学年担任)

校長

上萩 琴美

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員による報告等、様々な機会を捉え、情報交換や状況把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<ul style="list-style-type: none"> ○言語に対する知識・理解や四則計算の力については、ある程度の定着が見られる。 ○昨年度 ICT 支援員の協力を得て、タブレットの操作を学習しているため、基本的な操作のスキルが身に付いている。 ●文章を書くことに苦手意識をもつ児童がいる。 ●話を最後まで聞き取ること、自分の考えを適切な言葉で表現することに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・落ち着いた学習に取り組み、基本的な知識・技能を身に付ける。 ・文章の内容を正確に読み取ったり、話をよく聞いて、内容を把握したりできる。 ・自分の考えを適切な言葉で書いたり、発言したりすることができる。 ・アンケートで、「授業は分かりやすく楽しい」と答える児童を90%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「藍畑小学習の約束」の内容の見直しを行う。 ・「朝の活動」を有効に利用し、ドリル学習や視写・聴写などを計画的に行う。 ・各教科で計画的かつ効果的にタブレットを活用し、児童の興味・関心を高め、深い学びにつながる授業づくりに取り組む。 ・積極的に公開授業を行ったり、学級の取り組みを紹介し合ったりすることで、教師の授業力を高める。 ・作文読本を活用し、文の組み立て等文章表現の基礎的な力を養う。 		<ul style="list-style-type: none"> ・「藍畑小学習の約束」を改善し、継続的に指導した結果、どの学年も落ち着いて学習に取り組んでいる。 ・朝の活動時間に、文章の学習や、日記の紹介、読み聞かせを行い、書く力が身に付いてきている。 ・メンター研修で、ベテランの教員の取組や、公開授業を参観し、若手教員の資質向上に励んだ。 ・優れた作文を作文読本に投稿し、表彰されることで書くことに対する意欲を高めた。 ・アンケートで、「授業は分かりやすく楽しい」と答える児童は93%で目標を達成している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「藍畑小学習の約束」を家庭だけでなく、学級でも繰り返し活用する。 ・基礎基本の徹底だけでなく、既習事項を生かした応用問題にも取り組む。 ・各教科で計画的かつ効果的にタブレットを活用する。実践報告を行い、教師の授業力を高める。 ・日記の書き方のマニュアルを作成するなど、基礎基本の習熟を図ることで文章力の向上に繋げる。 ・既習事項を日常で活用している例や、身近な話題を挙げたりすることで、児童の興味関心を高める。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<ul style="list-style-type: none"> ○問いに対する答えを発表したり文章を声に出して読んだりする活動に、進んで取り組む児童が多い。 ●自分の考えを理由や例を挙げて話すことに苦手意識をもつ児童が多い。 ●必要な情報を選択・整理し、筋道立てて理解したり説明したりする力に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・根拠や理由を明らかにして自分の考えを表現したり、自分と友達の意見を比べながら聞いて考えを深めたりできる。 ・筋道立てて整理し、文章に表現することができる。 ・アンケートで「進んで自分の考えを発表したり話し合ったりする」と答える児童を75%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いや考えをまとめたり、話し合いを深めたりするために、ホワイトボードやメモ、ICT機器を授業に取り入れる。 ・振り返りで、学習して考えたことや次への課題を書いたり、互いに伝え合ったりする場を設定する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットを用いて発表をすることで、伝えたい内容を整理して発言をしたり、写真や思考ツールを友達と見比べながら考えを深めたりすることができた。 ・発表の振り返りを記述し、発表することを日常的に行った。発達段階に応じて付箋に記述させるなど文量を調節することで、苦手意識を感じる児童が減った。 ・アンケートで「進んで自分の考えを発表したり話し合ったりしている」と答える児童は84%で、昨年度を18%上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT 支援員の協力の下、様々な授業でタブレットを活用する。不具合があったときの対応策を考え準備する。 ・発表の仕方や、聞き方、話し合い活動の仕方などのマニュアル作りをする。古い掲示や、使っていない教材の整理を行い、学習環境を整える。 ・書く活動を重視し、意欲や書く力を高める手立てや表現の場を工夫する。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<ul style="list-style-type: none"> ○課題に根気強く取り組む児童が多く、ほとんどの児童が毎日宿題をし、提出している。 ●自分にあった課題を見つけ、主体的に学習できる児童は少ない。 ●読書習慣の定着が十分でない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科の学習や家庭学習に主体的に取り組む。 ・自主学習に進んで取り組む。 ・読書習慣を身に付ける。 (前後期ともに、低学年50冊、中学年40冊、高学年30冊の目標達成児童を80%以上にする。) 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットを活用した家庭学習を設定し、学びの幅を広げる。ICTを効果的に活用することで学習への興味関心を高め、課題意識や達成感をもたせる。 ・内容の優れたノートを紹介したり、例を示したりし、自主学習の質を高める。 ・読書記録を活用し図書委員による表彰をすることで、図書室の利用推進を図る。 ・おすすめの本の紹介やブックトーク等、本の魅力を互いに伝え合う活動を通して進んで読書に親しもうとする態度を育てる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットを用いた家庭学習を設定し、その課題を授業でも活用することで興味関心が高まり、深い学びに繋がった。 ・自主勉強ノートを紹介したり、教室に掲示したりすることで、良いところを参考に工夫する児童が増えた。しかし、自主学習に取り組んでいる児童と、全く取り組んでいない児童の個人差が大きい。 ・図書委員による図書室の掲示、表彰を行ったが、図書室の利用が少ない。前後期ともに、低学年50冊、中学年40冊、高学年30冊の目標達成児童が45%にとどまった。全校的な取組が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自主学習に対する二極化を改善するために、発達段階に応じて、自主勉強の方法や具体的な例を提示し、継続的な取組ができるよう指導方法を工夫する。 ・感染対策を徹底しながら、図書委員による読み聞かせや図書イベントを行う。また、各学級で教科学習での図書室の利用を定期的に行い、全校で読書教育を推進する。 ・「読み聞かせの会」の活動を再開し、読書に関する関心・意欲を高める。

令和4年度 学力向上ロードマップ

